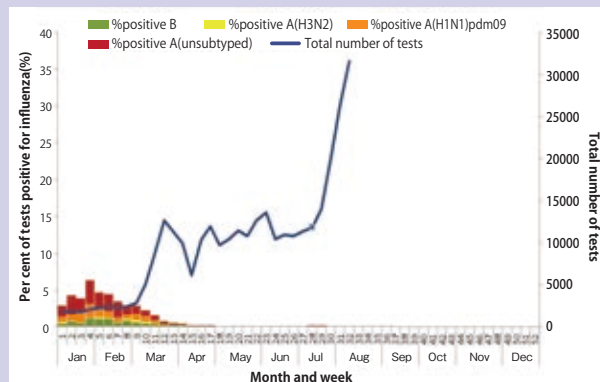


これらのデータを見る限りでは、現在の南半球ではインフルエンザとコロナの混合流行はおこっていないようにみえますが、南米の状況は明確にはわかりません。もちろん、日本でも同じようになるかどうかはわかりません。少なくとも、現在南半球の国々が行っているように、発熱や呼吸器症状のある患者数をきちんと把握して、そのなかで病原体検査を行って、どのようなウイルスが地域で伝播しているのかをみていく以外に方法はあります。しかしながら、病原体の検査のために検体を取るには、飛沫が飛散するリスクがありますので、きちんとした感染対策のもとに行っていく必要があります。この冬は、検査が行える機関において流行病原体を特定し、その情報を地域において共有していくことが大切になると考えられます。(臨床研究部長 谷口 清州)

(図5) オーストラリアにおけるインフルエンザウイルス検査数と亜型別陽性数(青い線が1週間当たりのインフルエンザ検査数、棒グラフがインフルエンザウイルス陽性率)



5病棟の生活のひとコマ 62

5病棟プレイルームで「9月誕生日会」を行いました。プレイルームに集まって行うことができました。感染対策のため、家族やボランティアの参加はなしにし、時間も短くして行いました。窓を開けて換気をしながら、扇風機で空気の循環や暑さ対策を行い、患者さん同士の間隔を空けて行いました。誕生日会ではいつも栄養科におやつを用意していただいています。今回はオペラチョコレートケーキでした。美味しく食べながら、誕生者を笑顔でお祝いしました。今後も感染対策をしながら活動していきます。



(児童指導員 笠松 陽子)

やまばとギャラリー information 情報コーナー

9月のギャラリー展示は、「ふくろう」でした。患者さんとスタッフが一緒に新聞紙を丸めて紙袋に入れました。紙袋の口を丸めて耳にしました。目を書いて貼り付け、くちばしを折り紙で折って貼り付けました。好きな色や柄の包装紙を選んでちぎり、羽に見立てて貼り付けました。様々な表情のふくろうを楽しんでいただけましたでしょうか。10月のギャラリー展示は「ピザ」です。楽しみにしてください。



(児童指導員 笠松 陽子)

通所支援事業のひとコマ

通所支援事業では、さまざまな療育活動をしています。みんなで「楽しいこと」「面白いこと」を経験しようと職員は毎日試行錯誤を重ねています。

ある日、「夏が終わっちゃうね〜」「今年はコロナ対策でイベントの中止ばかりだったね」「花火も見えなかった〜」等、ご家族や利用者さんとお話をしていました。その中で、今年は「夏らしいイベント」を体験することができなかったことがわかり、通所支援事業の中で「花火」「お化け屋敷」をする計画を立てました。

みんなで本物の花火をしたかったのですが、夜に集まることができなかったため、通所支援事業の中を真っ暗にし、大きなスクリーンで、プロジェクターで投影した花火を30分くらい観ました。最初は真っ暗になっただけ



で、「何が始まるの?」といった表情の利用者さんたちも、花火の映像が始まると目を大きく見開き、熱心に視線を送ったり、表情がほ

夏の風物詩?!

ぐれたり、「きれい…」と言ったりして、花火の雰囲気を楽しんでいました。

おばけ屋敷は、部屋に入ると顔にペタッと何か(ビニールテープ)がくっついてきたり、「パン!!」と大きな音(クラッカー)が鳴ったり、冷たいもの(アイスノン)が顔を擦ったり…とビクビク?!するものばかりでした。職員と利用者さんがペアになって回りますが、顔に何かがかくついたり、冷たいものが触ったりすると、一生懸命手で払いのけようとしたり、目をギュッとつぶったり、発声や表情で「イヤ」を表現したりしていました。普段とは違う姿に職員は「やったー!」とニヤニヤ…でした(笑)。



コロナ対策でなかなか気持ちにゆとりもできませんが、ちょっとした工夫で、みんなで楽しいことに取り組めたように思います。現在はハロウィンに向け、イベントを企画中です。今度はどんな姿を見せてくれるのか?!今からとっても楽しみです♪ (主任児童指導員 丸澤 由美子)